

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	①児童の実態を把握し、身に付けさせたい資質・能力を学校全体で共有する。②単元ごとに身に付けさせたい資質・能力を明確にした授業づくりをする。③主体的、対話的で深い学びを通して、児童の学びの充実を図る。④重点研究を切り口として、教師の授業力及び評価力の向上を図り、授業改善に努める。	重点研の取り組みの中で、昨年度から引き継いだ実態と、5月時点で学年ごとに把握した児童の実態とを合わせ、各学年ごとに身に付けさせたい資質・能力について子どもの具体的な姿として設定し、定期的にふり返りと目標の再設定を行なった。	B
心の教育	①誰もが安心して豊かに生活できるよう、挨拶運動やペア学年の交流を通して、コミュニケーションの力を育てる。②道徳教育や体験的な活動を通して、他者を思いやる心を育てる。③生活科や総合的な学習の時間を活用して、人、学校、待ちを愛する心情を育てる。	①児童会を中心とした挨拶運動を行ったり、年間にペア学年の交流活動を実施したりした。②授業参観で各学年一回以上の道徳科の授業公開を行った。③130周年の取組の一つとして、トンボ池の周りをリニューアルする活動を地域の方とも協力して総合的な学習の時間で取り組んだ。	B
健康教育	①体力テストの結果をもとに、自分の体力や運動能力を把握し、実践する内容を定める。②体育科の授業の充実を図るとともに、年間を通して縄跳び運動等に全校で取り組み、体力の向上を図る。③学校保健委員会の取組を通して、健康を保持増進する体制を作る。④日々の給食を通して、食育に目を向け実践する。	①自分の運動能力の把握は出来たが、個々で実践する内容を振り返りができなかった。②縄跳び運動も単元に応じて行った。③年2回の実施で、背筋を伸ばすことや呼吸の仕方について学び意識することができた。④一人ひとりが栄養バランスを考えてよりよい食事を行うことができた。	C
地域連携	①年間3回の学校運営協議会を通して、学校経営方針の承認及び課題の共有を図る。また、学校経営に関する意見交換をし、経営に活かす。②地域コーディネーターを中心に、学校地域協働活動を整理し、組織的に活動できるようにする。③PTA運営本部と連携し、保護者の思いを吸い上げ、学校経営に活かす。	学校運営協議会を通して、学校経営の方針を確認し、課題の共有を行った。学校に関わる方からの意見を参考に、学校経営の調整を行った。地域コーディネーターに立ち、保護者、地域、学校が一体となって、130周年事業を執り行うことができた。PTAと連携し、意見を取り入れながら経営を行った。	B
いじめへの対応	①いじめ防止基本方針をもとに、月に一回のいじめ防止対策委員会を開催し、児童の現状を全教職員で共有する。②定期的なアンケートをもとに、いじめの未然防止、早期発見、再発防止に努める。③学級担任が一人で抱えず、常に学年、専任及び管理職で課題を共有し、迅速に対処する。	①月一回いじめ防止対策委員会は欠かさずに開催した。顔写真を確認しながら全職員で共有することができた。②アンケートの活用も行った。気になる記述があった場合は即対応し、未然防止、早期発見、再発防止に務めた。③学年や専任、管理職と課題を共有することに務めた。もっと迅速にできたと思われる案件もあったので、来年度以降生かしていきたい。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①重点研究及びメンター研修を通して、授業実践を行い、学習指導や生活指導の実践力を高める。②それぞれのキャリアステージにあった目標を立て、実践を中間期、期末に振り返り、次に生かすようにする。③地域のかみ借りながら、教職員の負担軽減を図り、メリハリのある勤務で、超過勤務時間の軽減を図る。	①研究授業や研修を通して、学習指導や生活指導の実践力を高めることができた。②キャリアステージをもと意識して、目標を設定し、自己を振り返る必要がある。チームとして個を支えていくことも必須である。③地域の教育力を活かす活動は見られたが、勤務の軽減にはつなげることができなかった。	B
特別支援教育	①専任を中心に、特別支援教育の充実を図る。②保護者や児童のニーズに合わせ、取り出し授業や入り込みによる学習支援を行う。③個別支援級を中心に、特別支援教育支援員及びアシスタントティーチャーなどを導入し、より個に応じた支援体制を整える。④不登校児童対策に取り組む、学校と家庭を繋ぐようにする。	①保護者、担任、専任、学校カウンセラー、SSWと共に教育相談を行い、必要に応じて関係機関との連携も図れた。②③④特別支援教室としての「はとまるルーム」が新しくでき、児童の困り感に沿った学習支援や個に応じた支援の場所として活用することができた。	B
ICT教育	①タブレットの効果的な活用を通して、主体的に情報活用する児童を育成する。②タブレットに関するモラルやセキュリティについて、児童及び保護者に理解できる情報提供を行う。③ICT支援員の力を借りながら、教職員の情報機器の操作能力の育成を図る。	①タブレットの使用頻度が増え、児童が操作に慣れてきたことで、様々な場面で主体的に情報活用する姿が見られた。②リーフレットや手紙を配付することで、モラルやセキュリティについての情報提供を行った。③ICT支援員の力を借りて職員研修を行うことで、教職員の能力向上を図った。	B
児童安全対策	①PTA校外委員会を中心にスクールゾーン対策協議会で学区の危険箇所を確認し、関係機関に働きかける。②学援隊に協力を仰ぎ、日々の児童の登下校の安全を確保する。③警察、児童相談所、区役所等関係機関と連携し、犯罪、虐待などから児童を守る。	①PTA校外委員会を中心にスクールゾーン対策協議会で学区の危険箇所を確認し、関係機関に働きかけた。②学援隊に協力を仰ぎ、日々の児童の登下校の安全を確保できた。③警察、児童相談所、区役所等関係機関と連携し、犯罪、虐待などから児童を守ることができた。	B
特設クラブ	①特設マーチングバンドクラブの活動を通して、音楽に親しむ心情を養う。②学校行事及び県大会、関東大会への出演などを通して、目標に向かって活動し、成果を発表できるようにする。③持続可能な形で運営できるよう、保護者会及び外部講師との連携を図る。	①マーチングに参加し演技演奏している児童はもとより、発表場面が昨年度より多くあったため、音楽を鑑賞することで音楽を親しむことができた。②県大会を通し、関東大会に出場し、練習の成果を発表することができた。③外部講師の児童への対応でいくつかの課題が生じたが、保護者会や話し合いを重ねることが改善しつつある。	B
ブロック内評価後の気付き	今年度は、小中一貫教育推進ブロックにおける活動を実施することができた。特別支援教育の視点をもち、子どもたちの「困り感」に寄り添った支援や指導の実践を目指した授業研究会を小中で行い、相互理解による授業改善を図ることができた。また、夏季休業中に3校合同の人権研修会を開催した。「豊かな心の育成」を目指し、今後もブロックでカリキュラムづくりを推進していきたいと思う。引き続きブロック内で協働して、目指す「自らのよきや課題に気付き、粘り強く挑戦を続け、自他ともに心豊かに生きようとする児童生徒」を育成していきたいと考える。		
学校関係者評価	学校が抱える今日的課題に対し、細やかな対応に一定の評価をいただいている。授業参観の様子から、特に感染症対策をしながら授業作りをする教職員の努力に感謝するという声もいただいた。また、どの学級も落ち着いて授業に参加し、指導者との関係性もよいという評価された。児童指導においては、指導すべきときにはきちんと指導し、保護者とも連携を図りながら、再発防止に努めていること、一人ひとりの心に寄り添う指導を行っていることも評価された。就労されている保護者も多い中、家庭学習のあり方、学習のつまずきへの補い方、健全育成のあり方等、今後も家庭の理解と協力を得ながら、進めていく必要があると助言を受けた。		
中期取組目標振り返り	コロナ禍での学校経営の中で、少しずつかつの取組が復活し、保護者や地域の繋がりが増えてきた一年であった。子ども同士の関わり合いの中では、相手とうまくコミュニケーションがとれず、手や足が出てしまったり、相手を傷付けてしまう言動であったりすることが目立ったので、今後も道徳教育、いじめ防止アンケートなどの取組を通して、相手意識の向上に努めていく。児童間のトラブルについては、引き続き、保護者への丁寧な説明とアフターケアを重視するとともに、未然防止に努めていく。学校を開くという意識を常にもち、学校で行われていることが保護者、地域に見えるように各種の取組を工夫していく。		

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	①児童の実態を把握し、身に付けさせたい資質・能力を学校全体で共有する。②単元ごとに身に付けさせたい資質・能力を明確にした授業づくりをする。③主体的、対話的で深い学びを通して、児童の学びの充実を図る。④重点研究を切り口として、教師の授業力及び評価力の向上を図り、授業改善に努める。		
心の教育	①特別活動の充実を図り、コミュニケーション能力を向上させ、よりよい人間関係づくりができるようにする。②道徳教育や体験的な活動を通して、他者を思いやる心を育てる。③生活科や総合的な学習を中心として、人、学校、地域を大切に作る心情を育てる。		
健康教育	①体力テストを実施後、自分の課題に応じた運動実践に取り組みるように振り返りを行う。②年間を通して縄跳びを全校で取り組めるように委員会と協力して行う。③健康の保持増進を図るために引き続き学校保健委員会の体制を作る。④栄養士の協力のもと、食について理解を深めるとともに、バランスのよい食事を心がける。		
地域連携	①年間3回の学校運営協議会を通して、学校経営方針の承認及び課題の共有を図る。また、学校経営に関する意見交換をし、経営に活かす。②地域コーディネーターをつなぐ役割としながら、学校地域協働活動を整理し、組織的に活動できるようにする。③PTA運営本部と連携し、保護者の思いを吸い上げ、学校経営に活かす。		
いじめへの対応	①いじめ防止基本方針をもとに、月に一回のいじめ防止対策委員会を開催し、児童の現状を全教職員で共有する。②定期的なアンケートをもとに、いじめの未然防止、早期発見、再発防止に努める。③学級担任が一人で抱えず、常に学年、専任及び管理職で課題を共有し、迅速に対処する。		
人材育成・組織運営(働き方)	①重点研究及びメンター研修での授業実践を通して、学習指導や生活指導の実践力を更に高める。②チーム学年経営の取組を進め、チームで学習指導や生活指導にあたる体制を整える。③教職員の働き方に対する意識改革を進め、メリハリのある勤務で、超過勤務時間の軽減を図る。		
特別支援教育	①専任を中心に特別支援教育の充実を図る。②特別支援教室としての「はとまるルーム」を活用し、児童の困り感に沿った学習支援や個に応じた支援体制を整える。③不登校児童のニーズに合わせた学びの体制が整うように学校と家庭を繋いでいく。		
ICT教育	①タブレットを利用して主体的に情報収集や情報の取捨選択を行い、効果的に活用できる児童を育成する。②情報モラルやセキュリティについて、児童および保護者に必要な情報提供を行う。③ICT支援員の力を借りながら、教職員のICT教育に関する知識や能力の育成を図る。		
児童安全対策	①PTA校外委員会を中心にスクールゾーン対策協議会で学区の危険箇所を確認し、関係機関に働きかける。②学援隊に協力を仰ぎ、日々の児童の登下校の安全を確保する。③警察、児童相談所、区役所等関係機関と連携し、犯罪、虐待などから児童を守る。		
特設クラブ	①特設マーチングバンドクラブの活動を通して、音楽に親しむ心情を養う。②学校行事及び地域行事への参加を基本とする中で、県大会、関東大会等でも成果を発表できるように努力する。③学校のクラブから持続可能な形で地域化を図っていく中で、学校がバックアップできる体制づくりを模索する。		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	c1		
心の教育	c2		
健康教育	c3		
地域連携	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)			
特別支援教育	c7		
ICT教育	c8		
児童安全対策	c9		
特設クラブ	c10		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			